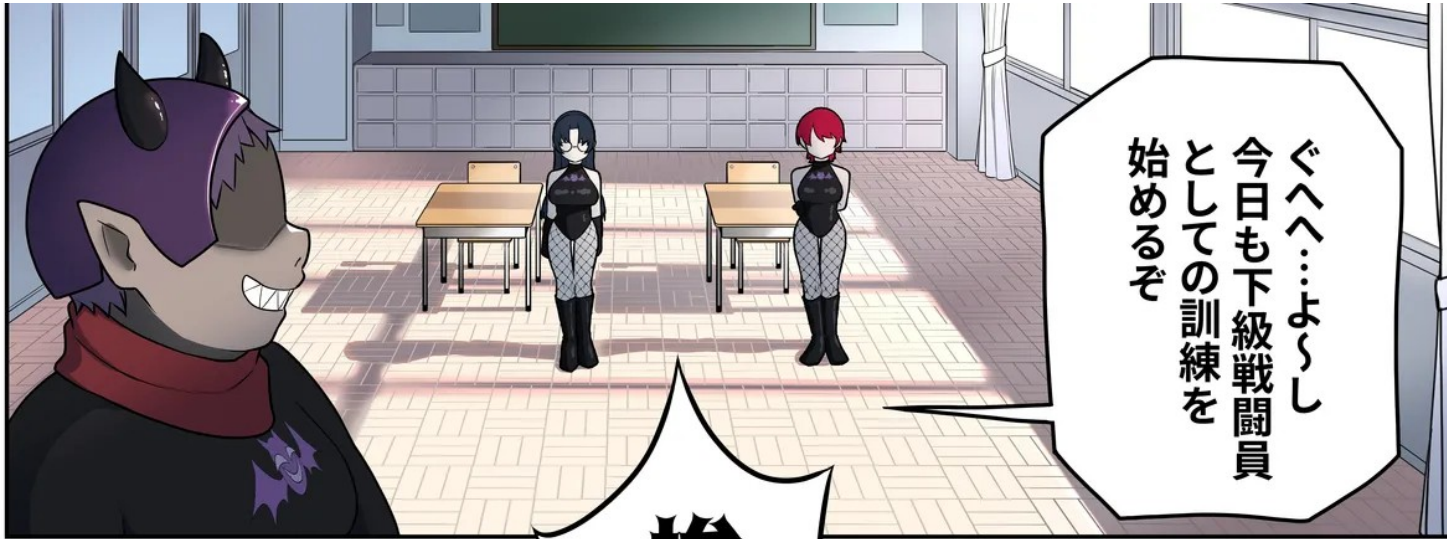




# ズギズギ ザクザク 教育

～仮想世界でTS戦闘員化調教～

原作 ちあきりん  
作画 ぽんぽん



ぐへへ…よろし  
今日も下級戦闘員  
としての訓練を  
始めるぞ

挨拶しろ



ブ  
…  
ブ  
キ  
ブ  
キ  
…  
♡



へへへー！


あのヒーロー様たちが  
下っ端戦闘員と同じように  
敬礼してるなんてな!!

何度見ても  
傑作だぜ!

ク、クソオ……♡  
身体が…勝手にツ……♡  
きもちいい……♡  
くっ……♡  
今は耐えるんだ……♡

さあ今日も  
たっぷり教育  
してやるぞ


元ヒーローの  
ザノマロコ  
ども……♪



俺達は  
ツインウィング

世界征服を企む  
秘密結社  
バッドブギーズと戦う  
正義のヒーローだ

…いや  
だった



だがある日  
現れた新たな  
怪人により

人々の意識が  
仮想現実  
に囚われてしまった！

俺達は逃げ込んだ  
怪人を倒すべく  
仮想現実  
に乗り込んだのだが  
…

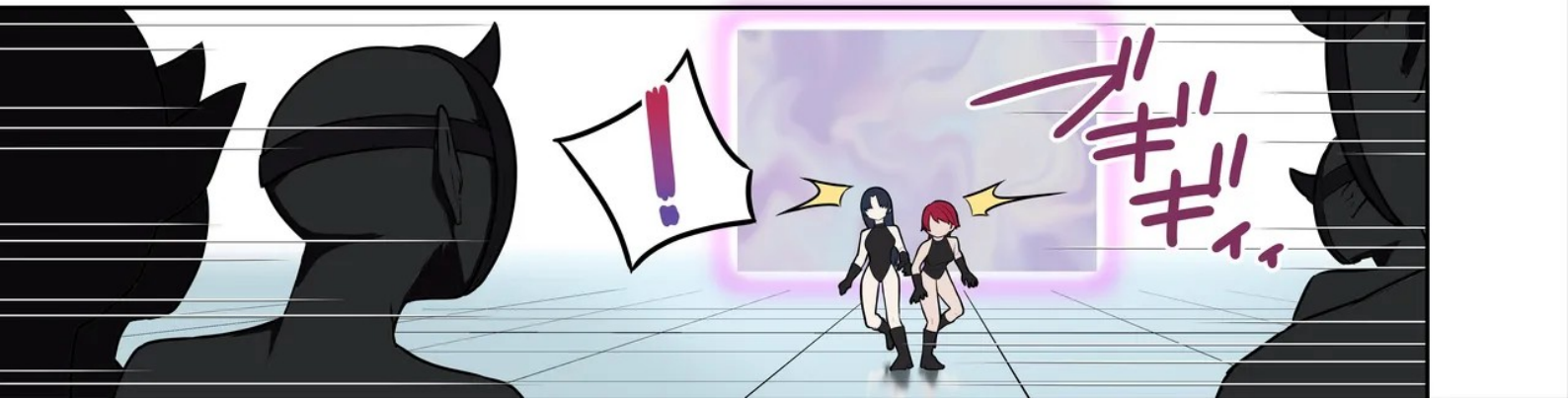
それは  
ワナだった



そこに踏み込んだ  
途端

俺達は  
バッドブギーズの  
戦闘員

それも女の子の姿に  
なってしまったのだ！



ブギィーッ

戦闘員!!

ブギィ

ブーギィギィギィー

待ち伏せされて  
いたか!

ああ、どうやら  
罠だった  
ようだな

俺達を仮想現実  
に誘い込んで  
『戦闘員という役割』を  
押し付けたいらしい

たかが見た目を  
変えられただけだ!

そうだ!  
俺達がこんな  
ザコ数匹程度に  
後れを取るものか!

いくぞ!!

数分後

そこには  
今まで蹂躪してきた  
戦闘員に敗北し

醜態を晒す  
俺達の姿があつた

そして今に至り  
このバッドブギーズが  
支配した仮想現実で

俺達  
ツインウィングは  
捕らえられ

教育を受けさせ  
られてい

バギヨオ  
!?

ん~~~~?  
ザコしたっばの  
分際で「俺」?

そんないつちよ前の  
口調が許されると  
思ってるのか?

ホラ雑魚っぽく  
言い直せ

だ、黙れッ……!

あ?



俺に抱き着いて  
ベロチューして発情しろ

デカケツザコ

か…身体がツ…♡  
勝手にっ♡

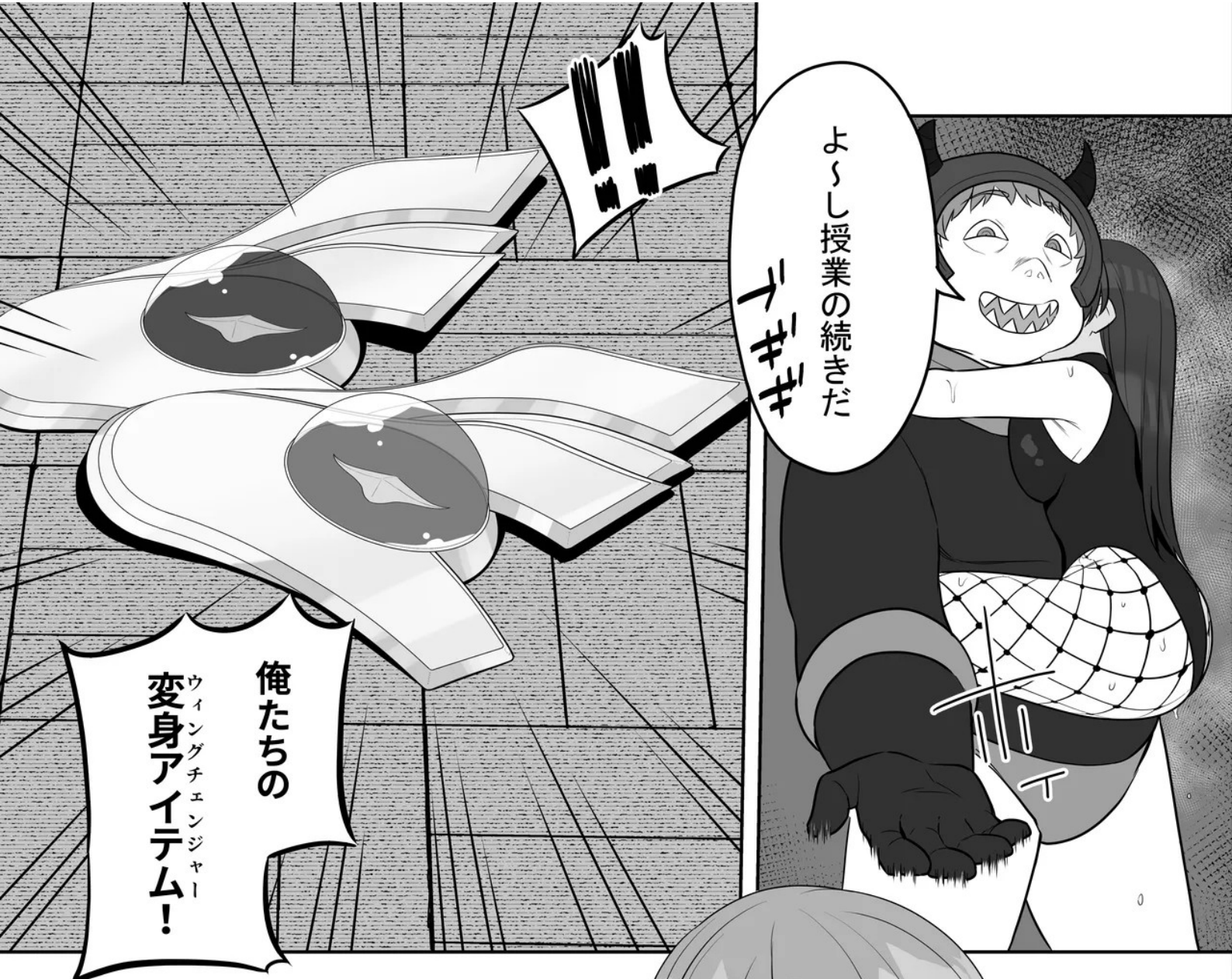
胸がときめいてしまっ♡

こんなキモデブ  
野郎にっ…♡♡

♡キモ♡

♡キモ♡





ようし授業の続きだ

ブギギギ

俺たちの  
変身アイテム!

ウイングチェンジヤー



したっば  
ザコメスども

ガニ股になって  
ここに集まれ

くうっ...  
今度は何をさせる  
つもり...





あはああんっ♡



バカになっちまうっ…♡♡

クッ…くそ…♡この身体  
尻を叩かれただけで  
頭ピンクに…



返事はどうした？  
バカみたいにブギー！  
と叫べ

わかったか  
雑魚マゾメスの  
したっぱカス戦闘員



残りの  
ザコ  
返事は  
どうした？

ブ…ブギー♡



ぐっ……♡

敬礼すると快感が溢れてっ……♡  
悪に忠誠を誓う度に……♡

いつちまうっ……♡  
バッドブギーズばんざいっ♡

……ちがっ……♡

ぐひひ  
お前たちの  
正義の心とやらを  
見せてもらおう……

命令だ

変身アイテムに  
シヨンベン  
ぶっかけながら

バッドブギーズに  
忠誠を誓え

!?





きさま！  
どれだけ  
性根が腐って…

…ううっっ!?



命令のせいで…♡

うぐっ…♡  
によ  
尿意が…

おっ♡

あ、溢れるっ…♡

おおしっこしたい…♡

じわぁ…♡

くだらないヒーローの誇りに  
おしっこかけながら  
パッドブギーズに忠誠を誓いたいよぉ…♡

耐えろ  
レッドっ…♡

確かに戦闘員様のご命令に従うことは  
わたしたちザコメス  
下級戦闘員にとって  
至上の悦びだけどっ♡♡



そうだっ♡  
姿を変えられようが  
俺たちは正義の  
ヒーローだっ!!

戦闘員様っ♡  
俺たちは絶対に  
負けな

うるせえよ  
さっさと漏らせ  
ザコメス





そ、そんなっ…ダメっわたしもっ♡  
バ、バッドブギーズに栄光あれ〜♡

ブギ  
ブギ  
ブギ

正義の誇りにおしつ〜ぶっかけるの  
気持ちいいブギ♡♡

どうだ？  
自分達の誇りだった  
変身アイテムに

シヨンベンぶっかける  
気持ちは？



ほか♡

ほか♡





な、なにっ!?

貴様  
いつのまに!

ウイングチェンジヤー  
変身アイテム  
さえ奪い返せば  
こちらのものだ!

覚悟しろ!

ブルー!  
いいぞ!

戦闘員様…  
じゃない!

コイツを  
ぶちのめして  
やれ!

変身!!

あオオニっ♡

…なっ…何だ!?  
どうして変身  
できない…!?

あひんっ♡

ニホっ…♡  
い、いつも通り

『ケツ穴に  
変身アイテム  
突っ込んで

ザコ乳首と  
ザコクリを  
虐めるオナニー』  
して…るのこ

なぜ…？

あ

お

ん

ブ、ブルー…？

ん

ん

ん

くっくっくっ  
くっくっくっ  
くっくっくっ  
くっくっくっ  
くっくっくっ

ゲ  
ゲ  
ゲ

ん

ぐへへ  
無駄だ！  
貴様らはもう  
認識改変済みだ！

変身することさえ  
無様な変態行為にしか  
ならないんだよ！

そんな…  
こ、このままでは  
戦闘員様の前で

ザコ乳首アクメ  
してしまっ…！♡  
イ、イっっ♡



グヘヘ  
だがお前らの気持ちは  
よおく分かった

俺を倒すことが  
出来れば  
変身させてやろう



な、なに  
……？

なんせ『元』最強の  
正義のヒーロー様  
だもんなあ

いくら  
雑魚マゾメスの  
したつぱ戦闘員に  
なったところで

ただの  
戦闘員である  
俺なんざ  
楽勝だろう??

言わせておけば……!  
良いだろう!  
後悔するなよ!

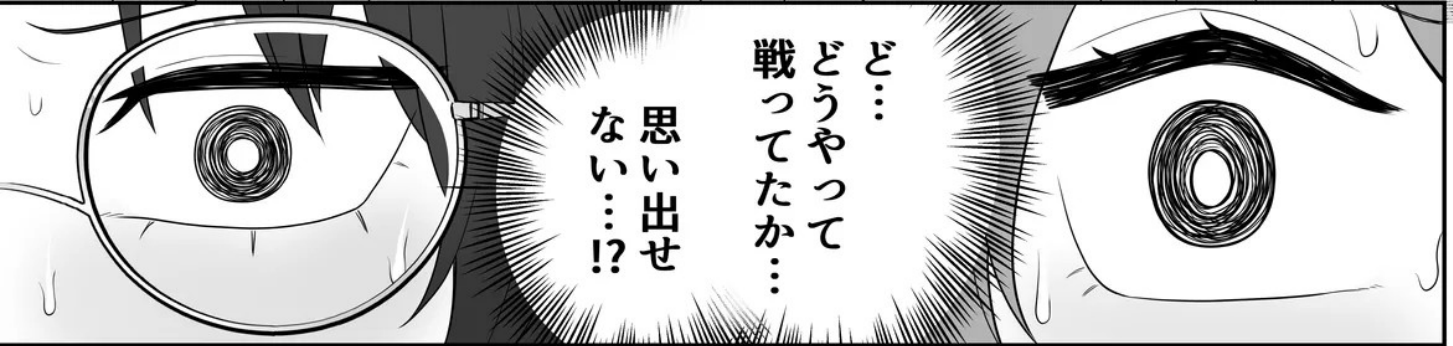
レ、レット……  
そうだ!  
正義がある限り  
俺達は負けない!

行くぞブルー!!

ああ!



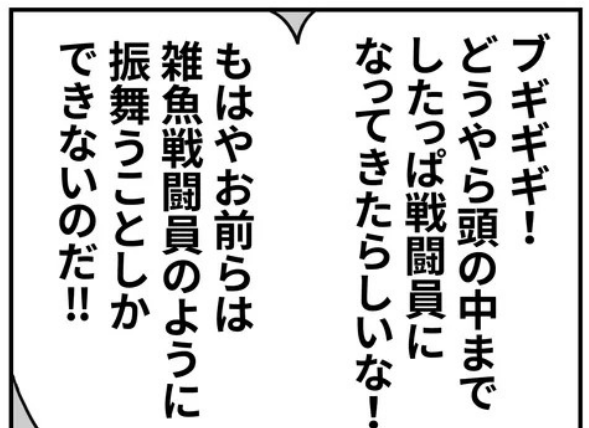
ブギブギ〜ツ!!



ど…  
どうやって  
戦ってたか…  
思い出せ  
ない…!?



ブ、ブギツ!?  
…そんなワケ  
ないブギ!



ブギギギ!  
どうやら頭の中まで  
したっば戦闘員に  
なってきたらしいな!  
もはやお前らは  
雑魚戦闘員のように  
振舞うことしか  
できないのだ!!



ぶ、ぶギギっ！  
その前に戦闘員様を  
たおしてやる  
ぶギっっ！

ぶギッ♡  
喰らう  
ぶギっっ！

ぶ  
ギ  
っ

ぶ  
ギ  
っ

ぶ  
ギ  
っ

ニ  
ゅ  
♡

ニ  
ゅ  
♡

じ  
っ  
っ  
っ

ダメだ  
パンチの仕方すら  
思い出せないっ♡  
ブギっ…♡

ポッ

ポッ

ポッ

乳首が擦れて…  
気持ちいい…  
クソっ♡  
集中できないっ…♡

ポッ

クソッ  
どうやっても  
下っ端ザコみたいな  
動き方になって  
しまうっ♡

ヒョイ

おっ♡  
戦闘員様の  
オスの匂い  
すごい♡

キヤ♡

キョキョ

マンコから  
蜜お漏らし  
しちゃうっ♡

おっ♡

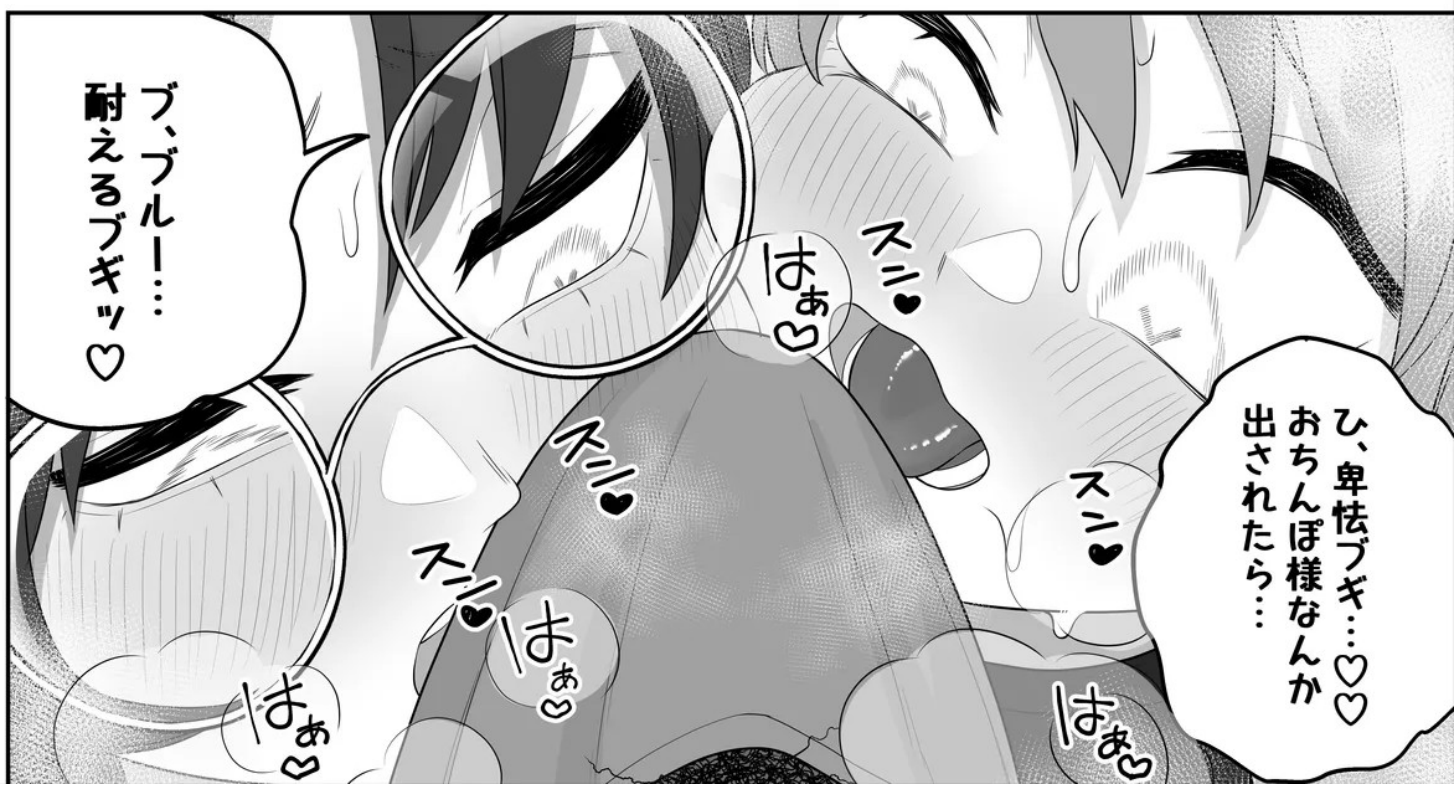


勃ってきちまった  
じゃねえか  
ああ？

やれやれ  
ザコメスの  
したっぱ戦闘員どもが  
メスのニオイ  
ぶんぶんさせるから



お…  
おちんぽ様っ♡  
ぶぎっ♡



ブ、ブルー…  
耐えるブギミ♡

スニ♡  
はぁ♡  
スニ♡  
はぁ♡  
スニ♡  
はぁ♡  
スニ♡  
はぁ♡

ひ、卑怯ブギ…♡♡  
おちんぽ様なんか  
出されたら…



ブギギギ♡

スニ♡

スニ♡

スニ♡

スニ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

スニ♡

はぁ♡

スニ♡

はぁ♡

スニ♡

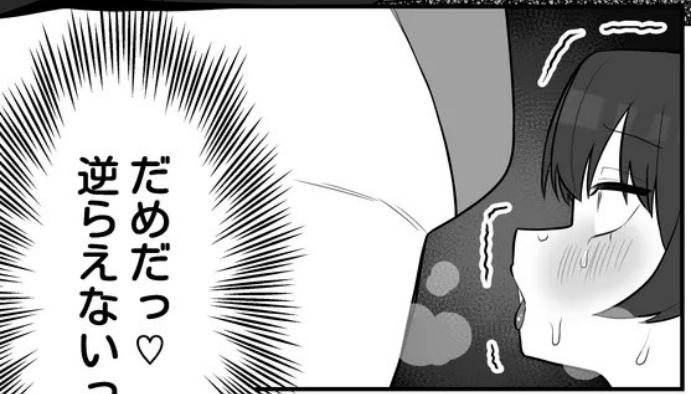
ダメだっ♡  
言葉すら話せなくなった…♡

スニ♡

もうわたしたち本当に  
便器以下の  
マゾメス戦闘員だ…♡

スニ♡

ブギギ♡



だめだっ♡  
逆らえないっ♡



ブギギギ♡  
よし、青い  
ザコまん♡

お前は俺のケツ穴でも  
舐めてろ♪



す♡  
す♡  
ブギギ♡



ぶぎっ♡しあわせえっ♡  
戦闘員様に道具として  
扱われるのさいこお〜♡

ぶぎぎぎぎ！  
良いザマだ！  
もつと丁寧  
に舐めるよ！  
ぶっぎぎぎぎ！！

ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡  
ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡

しゅ♡しゅ♡しゅ♡

ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡



よろし  
そのまま上手に  
しゃぶれよ  
元ヒーローの  
ザコメスしたっぱ  
戦闘員ども

本当なら瞬殺できる  
雑魚戦闘員に  
使われる悦びを心の中で  
噛み締めながら、な

よし出すぞ  
赤いほうの  
ザコメス

一滴残らず





飲み干せ

こうして  
正義のヒーロー  
だった二人は

二度と仮想世界から  
脱出することは叶わず

もちろん二度と  
男にもヒーローにも戻れず

性処理用ザコ戦闘員として  
一生を過ごすことになったのだった